	学校名：蕨市立中央小学校	● 実践教科等：国語・道徳
	氏名：石井 理紗子	● 時間数：6 時間
Viet Nam	[担当教科：小学校全教科]	● 対象生徒：小学校 6 年生
		● 対象人数：32 人

1 単元名 Good Future Project ～未来がよりよくあるために、私たちが今、できることを考えよう～

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・世界で起きている様々な問題について理解し、よりよい未来についてイメージを広げられるようにする。
(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・日本やベトナムに関する写真や資料をもとに、よりよい未来を築くために大切なことを多面的、総合的に考える力を育てる。
(多面的、総合的に考える力)
- ・ベトナムや世界にはよりよい未来を願って様々な活動をしている人がいることを知り、よりよい未来を築くために自分ができることを考え、実践しようとする態度を育てる。
(進んで参加する態度)

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

- ・日本やベトナムの現状に関する様々な視点から撮影された写真から、世界には様々な課題があることに気づくことができるようにする。【3】
- ・資料から読み取ったことや考えたことをもとに、色分けした付箋を使って構成メモに自分の考えを整理することができるようにする。【2】

4 単元の指導について

(1)教材観

本単元では、国語科「未来がよりよくあるために」という単元を中心に、「よりよい未来について、自分が今できることを考える」ことをねらいとしている。未来を担っていく一員として世界の国々が置かれている様々な状況を知り、特に、日本の諸課題や今も戦争の後遺症を抱えるベトナムの現状を取り扱って授業を展開していく。

国語科「未来がよりよくあるために」では、初めに児童への問題提起があり、それを受け、資料「平和のとりにてを築く」を読む。この「平和のとりにてを築く」を読んだ感想をきっかけに、過去の歴史や現代社会の問題から、「未来がよりよくあるために」大切なことは何か、自分の考えをもつことになる。情報収集をする際の導入では「ベトナム」を例に、過去や現在の課題を乗り越え、よりよい未来を願って活動している人々について知る。

また、道徳「世界がもし 100 人の村だったら」では、世界の人口を学級児童数の 32 人に置き換え、世界の人々がどのような状況で生活しているのかを知る。その後、副読本で取り上げられている「マザー・テレサ」や「リンカーン」、さらに「セヴァン・スズキ」、「マララ・ユスフザイ」など、よりよい未来を願って活動した人々の想いについて考える。3 学期には社会科で「世界の未来と日本の役割」という単元がある

ことから、本単元で知る世界の現状やその後に書く意見文が活用できると考えている。様々な視点から「よりよい未来」について考えることで、将来、日本だけでなく世界全体がどうあってほしいかということを考えるきっかけになるようにしたい。

(2) 児童生徒観

本学級の国際理解に関する実態は、次の通りである。

国際理解に関する取り組みに関しては、一人ひとりが興味のある国について調べ、毎日クイズ形式で発表する活動に取り組んでいる。発表した国については、教室に世界地図を掲示し、その下に「World research」というレポートにまとめて地図に色を塗る活動を通して、世界地図を見る習慣がついている。また、話し合い活動に対して意欲的に取り組もうとする雰囲気があり、グループで自分の考えを交流したり、学級会で意見を出し合ったりする場面では、児童が積極的に発言しようとする様子が見られる。

児童はこれまでに、社会問題に対する調べ学習や、自分の考えを深める活動に取り組んでおり、社会科の「新しい日本、平和な日本へ」の単元では、個々が関心をもつ社会問題について調べ、新聞にまとめる学習に取り組んできた。本単元では、このことからさらに発展させ、課題を解決することで、よりよい未来を築くために大切なことが見えてくるということを意識させたい。

さらに、国際理解や平和についての意識調査から、世界で起きている出来事について知ったり考えたりすることが好きな児童は、85%を超えているが、「自分ができること」にまで積極的に目を向けることができていない児童は約40%となっており、児童自らが社会・世界の一員として未来を築く立場にあるという自覚は低い。しかし、世界で起きている諸問題について「少しでも力になりたい。」という思いをもっている児童は90%を超えていることから、本単元の学習をきっかけに、自分ができることについて考え、意識して行動とする児童が増えてほしいと考えている。

(3) 指導観

「よりよい未来」を考えさせる上で大切にしたいことは、世界が抱える諸課題をとらえ、それを改善していくために「自分の力で今できること」を考えることである。様々な問題を抱えているのは日本だけでなく、世界でもそれぞれの国が問題を抱えており、それを改善していくために努力している人がたくさんいるのだということを実感できるようにしたい。

また、ベトナムを含め世界が抱える諸問題を取り扱う際には、「かわいそう。」という視点ではなく、それぞれの地域の特徴をとらえ、現状を知った上で「自分ができることは何か、どんな未来を願うのか。」という視点につなげられるようにしていく。

5 評価規準

観点	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
評価 規準	・「未来がよりよくあるために」どのようなことをすればいいのか、友達の意見も聞いて考え、自分の考えを書こうとしている。	・互いの立場や意図をはっきりさせながら、問や助言を入れて、計画的に話合っている。	・情報収集のため、文章を読み比べて必要な情報を要約したり、引用したりして用いている。 ・自分の考えや意見とは異なる立場に立つ他者の存在を意識し、構成を工夫して書いている。	・書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら意見文を書いている。
評価 方法	・発言 ・観察	・観察 ・ワークシート	・ノート ・ワークシート	・ノート ・ワークシート

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	未来がよりよくあるために	「よりよい未来」についてイメージを広げ、今後の学習への見通しをもつ。	・「未来」「平和」についてのイメージマップ ・「平和のとりでを築く」
2	世界で起きている問題について考えよう ～今、日本は～	「SDGs」について知り、今、日本で起きている様々な問題と関連させて、日本がよりよくあるために大切にしたいことを考える。	・日本がよりよくあるために大切にしたいことを考える。
③	世界で起きている問題について考えよう ～今、ベトナムは～	ベトナムの現状を知り、ベトナムの未来がよりよくあるために大切にしたいことを考える。	・ベトナムがよりよくあるために大切にしたいことを考える。
4	世界で起きている問題を知ろう ～世界がもし32人の村だったら～	世界でおきる様々な問題について知り、世界の人々に対して正しい理解と親愛の情をもって接しようとする態度を育てる。	・「世界がもし100人の村だったら」
5	よりよい未来を願った人々について知ろう	よりよい未来を願って活動した人がいることを知る。	・マザー・テレサ ・リンカーン ・セヴァン・スズキ ・マララ・ユスフザイ
6	未来がよりよくあるために	自分が願う「よりよい未来」について意見文を書く。	・「よりよい未来」について意見文を書く。

7 授業事例の紹介

小単元名【未来がよりよくあるために】

(1) 指導案

(ア)実施日時 12月7日(木)第3限

(イ)実施会場 6年2組 教室

(ウ)本時の目標

- ・ベトナムの現状を知り、ベトナムの未来がよりよくあるために大切にしたいことを考える。

(エ)指導のポイント

- ・様々な視点から撮影した写真を使用することで、ベトナムが抱える課題だけでなく、よい点にも気づかせる。
- ・色分けした付箋を使用することで、分かったことや考えたことを整理しやすいようにする。
- ・構成メモについては、国語の教科書(光村図書 P93)に例示されているような観点に分けて整理させる。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)	
3	1本時の学習課題	○前時の活動を振り返り、本時の学習課題を把握して見通しをもつ。	一斉	・前時でまとめた構成メモを提示し、日本以外の国へ目を向けることができるようにする。		
		未来がよりよくあるために大切にしたいことを書き出し、自分の考えをまとめよう。				

15	2ベトナムの現状	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や資料から分かったことを付箋に書き出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・青:よい点 ・赤:課題 ・黄:課題に対する解決策 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの写真や資料を用意し、児童が自由に手に取れるよう、机の配置等を工夫する。 	
10	3構成メモの整理	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合い、書き出した付箋を構成メモに分類する。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会や環境に関わること ・人や自分自身に関わること ・よさを残していきたいこと ・新たに実現していきたいこと 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・手が止まってしまう児童には、写真の裏面に書いてあることを写すだけでもよいことを声かけする。 ・次時に個人で構成メモを整理するため、本時ではグループで話し合いながら一つのメモを作っていく。 ・視点に迷う項目に関しては中心近くに集めて貼るよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来がよりよくあるために、様々な視点から大切にしたいことを考え、書き出している。(書く能力・ワークシート)
12	4意見文を書くための準備	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで交流したことをもとに、自分が願う「よりよい未来」についてまとめる。 ○自分の考えをグループで発表する。 ○「未来がよりよくあるために」と願って、活動する人について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム平和村施設長 ・青年海外協力隊篠田隊員 ・FIDR:大槻さん 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合ったことや印象に残っている写真をもとによりよい未来について書く。 ・なるべく理由も合わせて書けるよう声かけをする。 ・写真を提示しながら自分の考えをグループで発表する。 ・数名の児童に全体で発表させる。 	
	5振り返りの視点	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来がよりよくあるために」と願うだけでなく実際に行動に移している人々について理解する。 ・「自分ができること」について考えられるよう声かけをする。 ・前時と本時にグループで作った構成メモをもとに次時から意見文を書く活動に入ることを伝える。 	

(2) 授業の振り返り

【成果】

- ・ベトナムに関する写真をできるだけ多く提示し、その国の様々な面を見せることで、児童の多様な意見や考えを引き出すことができた。
- ・教材として使用する写真を精選することで、第2時で行った活動の時よりも、より写真に関心をもって児童が授業に取り組む様子が見られた。
- ・観点を分けて構成メモを作成することで、児童自身の考えが整理しやすく、日本と世界の現状についてもよく比較することができていた。
- ・意見文を書く活動では、世界の現状や課題を踏まえて、今自分ができることについて考えたものが多くあった。
- ・世界のことについて目を向ける児童が増え、ユニセフやユネスコなどの機関について自主学习で調べる児童もいた。

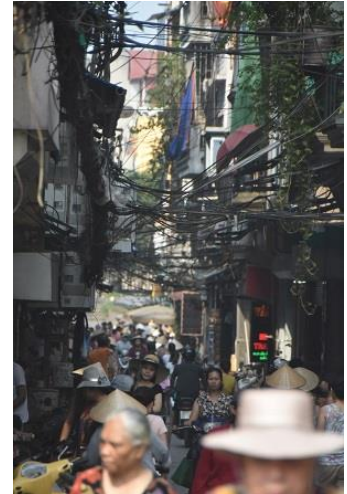
らして
たと
らな



日本の技術協力によって
作られたワクチン



伝統を守るカトウ一族の人々

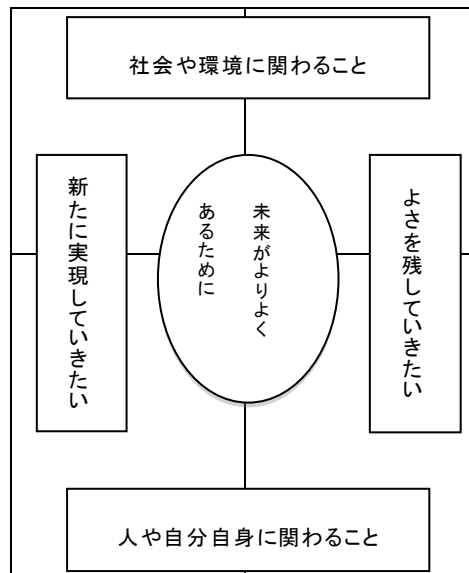


電線が絡み合う町中

②FIDR 大槻さんのインタビュー



③構成メモ



(4) 参考資料等

- ・『六年国語 創造』光村図書、平成 27 年
- ・『学習指導要領解説(国語科編)』文部科学省、平成 20 年
- ・『ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら』磯野昌子他著、開発教育協会、2003 年
- ・『小学校国語 3 つの視点でアクティブ・ラーニング』二瓶弘行・青木伸生編著、明治図書、2016 年
- ・JICA「どうなってるの？世界と日本」
 〈https://www.jica.go.jp/aboutoda/interdependence/child_world〉、(10 月 20 日)
- ・DEAR「参加型学習とは(フォトランゲージ)」
 〈<http://www.dear.or.jp/activity/menu05.html>〉(11 月 13 日)

8 単元を通じた児童生徒の反応/変化

〈児童の意見文より(一部抜粋)〉

- ・ベトナムでマスクをしてバイクに乗っている人々の写真を見て、日本は比較的環境問題に困っていないのではないかと実感した。では世界の人々が環境問題や病気に困らない未来にするために、自分に何ができるだろうと考えたとき、まずは保健委員として手洗いうがいの習慣づけを呼びかけることだと思った。小さな力だけれど、このように身近なことから実行していくことが大切だと思う。
- ・その国の伝統や技術を守ろうと必死に活動している人々の姿を見た。自分が直接その国へ行くことは難しいかもしれないが、広い世界にはたくさんの伝統や文化があるということを私たちが理解しておくことが大切なのだと思う。

→授業の導入で「よりよい未来」についてのイメージを聞いた際、自分の身近な環境について発言する児童が多かったが、まとめの意見文を書く活動では、世界の現状や課題に目を向けて考えることのできる児童が増えた。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

本単元について、教科書では身近なことや自分の将来などに関連させて意見文を書くように取り扱っている。しかし、児童がこれから生きて行く社会の中で世界との関わりでは不可欠であり、よりよい未来について考える際には少しでも考えさせたい内容であった。海外研修や事前事後研修を通して学んだ、アクティブラーニングの取り組み方や、資料の提示方法を実践することで、児童にとって「他人事」ではなく「自分自身が関わっていく未来」として世界の現状を考えさせることができた。

○本単元における PDCA サイクル

段階	項目
P 計画	・本校がある地域の特性や児童の実態を踏まえ、国際協力や世界の諸地域について児童がより実感をもって考えることのできる単元について考え、授業計画を作成した。
D 実施	・日本やベトナムの現状や課題を捉え、未来がよりよくあるために自分ができることについて、より広い視野をもって考えられるようにした。
C 検証	・ベトナムで撮影した写真の提示方法を工夫したり、ウェビングやロールプレイなどアクティブラーニングの様々な手法を取り入れることで、児童の多様な考えを引き出すことができた。
A 改善	・課題に目を向けてしまう場面が多く、「それぞれの国のよさ」や「違いを理解する」という点まで児童の考えを広げられる場面が少なかったため、今後は「相互理解」という点にさらに重点を置いた授業実践に取り組む必要がある。

10 教師海外研修に参加して

本研修に参加し、授業計画を立てる中で、学校教育の様々な場面で国際理解教育を行うことができるのだと思った。また、継続して取り組むことで児童の世界に目を向ける姿勢というのは確実に育っていくのだということも実感した。

また、海外研修で JICA ベトナム事務所を訪問した際、次長から「国際協力で本当に大切な『cooperation(=一緒にやろう！)』という気持ち。」というお話があった。この言葉の通り、今後は学級の児童に対してだけでなく、学校全体で世界に目を向けて取り組めるような活動を考え、実践していきたいと思う。